

ひだご坊

No.305
2014年12月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

六角堂の親鸞聖人に想う

佐野明弘



六角堂の親鸞聖人のお姿を想う。比叡山にあって、いずれの行も証をもたらしことが出来ず、行に迷い信に惑う。ついにそれ以上進むことも、戻ること、逃げることも出来ず、山を下り「六角堂に百日(も)らせ給いて」(『真宗聖典』616頁)ただひたすら救世観音に向かつて祈られる。どうにも出来ないところまできた者の持てる声は「たすけてください」しかない。これは人間の持つ最後の言葉であり、また人間の誰しもが根底に抱えている、人間を貫く言葉である。どうにもできない自分を抱え、ひたすら道を求めて祈られる。そのお姿を想うと、何か胸に迫り響くものがある。私のイメージする六角堂の聖人は、そういった救世観音と対峙して手を合わせ、お顔を見上げては祈り続けられるお姿でした。

この夏、久しぶりに奈良へ行く機会を得た。ゆっくり拝観するが、何か昔と違う。あれこれ考えるうち、白髪の婦人が仏像の前に座って一心に祈り始めた。その姿にホッとする。そういえば、先程から数えきれぬ人々が来ては去っていくのを目にしたが、ほとんど手を合わせ拝む人がいない。それが昔と違っていたのだ。団体はともかく数人のグループでも、ただ解説に終始して、ゆっくり対峙することもなく去ってゆく。祈りの場が物見見物の場となった。係の人には「流れが悪くなるから早く出るように」と促される始末で

た多くの人々の姿が見えてきた。その中に聖人もおられる。そういう場面である。九十五日の間、聖人は自ら祈りつつもその人々の姿をご覧になっておられたに違いない。きっとそれらの人々の姿が聖人を大きく揺り動かしていったのだと直感した。聖人は個人的都合の祈りに批判的だったであろう。しかし祈りの内容ではない。「たすけてください」と祈らずにはおれない人々の姿。どうにもならぬ苦を抱えて一心に祈る人々、よきひと、あしきひと、貴きひと、賤しきひと。その姿に、もう一度、一切の衆生の救済を誓った弥陀の本願のお意を聞きなせねばならないという欲求が、聖人を突き動かすことになったのだから。ついに夢告をえて、本願念仏の教えを一筋に説く法然上人のもとへと走られる。

私の言っている通りの絵が仏光寺派に伝わっていると知り、見せてもらった。その絵には六角堂の内にも外にも様々な人が集まっていた。地べたにはいつくばるボロ布をまとった賤しき身分の人。それを穢れが移ると思つてか、扇を開いて顔を隠し扇の骨の間からその人を見る貴き身分らしき人。この人も祈らねばならぬものを抱えてきたの

だろう。そして聖人の後には、誰か他の人に連れてきてもらったのである。手も足もない人が椅子の上において、手のない手を合わせて祈っている。その絵では聖人は救世観音の方に体を向け手をつけて礼拝している姿だが、顔だけ後ろを見てこの人々を見ているのだ。苦悩の群萌。苦の内容を選ばず、その苦悩せざるを得ない人間の姿を見出し受け止めたところに、弥陀の本願が建てられている。人間の救いを理想的に求めてきた聖人を本願に引き返したのは、まさに苦悩の群萌の姿であったのだ。

おしなま
くもみき

問
お仏飯を備えるってなに？

答
お仏飯は、お朝事(朝のお勤め)の後に備えし正午前にお控えます。これはインドの修行僧が、毎朝、托鉢の行をした後にご飯をいただいたことに由来しています。

私たちは無数のいのちによって生かされています。その象徴としてお備えるのが主食としてきたお米です。そのような私の事実が教えられていくことが備えることの意味です。

お仏飯を備え、お内仏の前には仏さまがいえると、私の目の前には仏さまがいらっしゃいます。その仏さまの教えを

いただいでいく場所が「お内仏」です。私が教えを聞く身になっていくことによって、お仏壇は単なる箱ではなく信仰の対象となつて「お内仏」となるのです。ですから、お仏飯を備えるということは「私はみ仏の教えに導かれ、念仏申す身」であるということを確認していく歩みといえるでしょう。

また、お内仏のお給仕をするということは、教えを聞く場を整えるということ。一日の始まりにはお仏飯を備え仏さまに向き合う時間を持ちましょう。

別院真宗公開講座のご案内

今月号執筆の佐野明弘さんがお話されます。

〈2015年1月23日(金)〉
テーマ 「この身を受けとめるといふこと(人身受け難し) —あるベトナム帰還兵の生きた道—」
※講話とドキュメンタリー映画上映

〈2015年2月17日(火)〉
テーマ 「この身を受けとめるといふこと(人身受け難し) —呼びかけと目覚め—」

会場 高山別院 御坊会館
時間 午後2時から4時(両日とも)
聴講料 各日600円

お正月も飛騨御坊にお参りください

高山別院では年の暮れ、参道両脇や階段にロウソクを灯す万灯会、年越し前から除夜の鐘つきが始まります。年が明け、午前0時から本堂にて修正会が勤まります。一年の初めに仏さまに手をあわせ、新年の歩みを始めましょう。



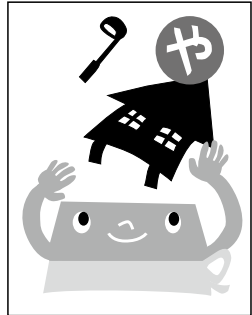
万灯会	12月31日(水)	午後11時	
除夜の鐘	12月31日(水)	午後11時45分	※甘酒を用意しております
修正会	1月1日(木)	午前0時	法話 三島多聞氏
	1月2日(金)	午後1時	法話 大町慶華氏
	1月3日(土)	午後1時	法話 窪田哲氏

☎テレホン法話(0577)342313 ☎12月21日~31日:三島見らん氏「西念寺」 ☎1月1日~10日:大町慶華輪番 ☎1月11日~20日:島田正子氏「二念寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

女と男の

ナムアミダブツ⑤

藤場 芳子



や やめました 良妻賢母と 縁の下

漱石の妻

夏目漱石の妻が「悪妻」で有名だったことをご存知でしょうか。駒尺喜美さんの『漱石という人』によれば、妻・鏡子は朝寝坊で漱石に朝食を食べさせずに出勤させたことがしばしばあったとい...

「良妻賢母」は誰のためか。

「悪妻」がいれば「良妻」もいるわけですが、一体誰がそれを決めるのでしょうか。明治時代、政府が欧米に追いつけ追い越せと近代国家を推し進める時に、女性に求めたのが「良妻賢母」でした。富国強兵のために子どもたちを「良い国民」に育てる役割が期待されたのです。でも、そんなのはとくに昔の話。今の若い女性たちには死語ではないかしらと思っ...

周囲から期待され、やがて「ねばならない」「当たり前」だと思われることへの抵抗感、悲しみ、諦めなどいろいろな思いが混ざっているのだと思います。一方、「女と男のあいあカルタことば集」の中には「客帰り 亭主関白 終わりです」というものもあります。お客様の前では「おい、お茶もつけてくれ」なんて言っている夫に対して、妻もまた「良妻」として一緒に「亭主関白」を演じていることがあるからです。時代は変わっても、女性も男性も案外昔のままの価値観を引きずっているのかもしれない。

今年度の流行語大賞に「ありのままで」がノミネートされました。『手伝って』と言えない」と元氣のない声で話し始めました。先輩ママたちは「私もそうだったよ」「やってもらいたいことを具体的に伝えたほうがいい」「一人で抱え込んじゃだめ」といろいろアドバイスをしましたが、最終的には、外から求められた「良妻賢母」をいつしか内面化して「そうあらねば」と思い込み、自分自身を縛っているのではないかと、いうことになりました。

『阿弥陀経』には極楽に咲いたくさんの蓮の華が「青い花には青い光があり、黄色の花には黄色の光があり、赤い花には赤い光があり、白い花には白い光がある」と描かれています。画一化されず、一人ひとりが光る世界。あなたには、あなたの隣にいる人がひとりの輝く人として見えていますか。

今回のカルタの絵はエプロンを付けたお母さんが、おたまと家を投げ打って「良妻賢母をやめた！」と縁の下から叫んでいるところ。こんな風にはできたらいいけれど、現実には悶々としながら日々の生活を送っているのではないのでしょうか。「良妻賢母」や縁の下で支えるのがイヤというよりも、

次回は酒井義一さんの「私を照らすひかりの言葉⑥」です。

託された思いを胸に

～飛騨御坊ボランティア委員会・第7回被災地支援活動報告～

飛騨御坊ボランティア委員会では、12月9日～11日の日程で、東日本大震災以降7回目となる活動を行ってまいりました。被災された方々からの「忘れないで！」という願いを受けてから3年9ヶ月、交流を続けております。



飛騨から届けた野菜

今回の活動では、始めに、福島県二本松市の真行寺さんにうかがい、皆さんからお寄せいただいた野菜を届けました。お話をきかせていただく中で、原発事故以降さまざまな不安や見えない恐怖をぬぐいきれないまま生活せざるを得ない現状を改めて感じました。

次の日には宮城県牡鹿郡女川町へ向かいました。震災当初の炊き出しから始まった訪問でありましたが、今では交流会が中心となっています。飛騨から持ち込んだ「大根汁」を一緒に食べながら、女川・飛騨、それぞれの味でお餅をいただきました。

今でも多くの方々が仮設住宅で生活しておられ、復興への道のりはまだ始まったばかりなのだとも感じました。そんななか、女川町の皆さんは私たちと同じ時を過ごすことを本当に大切にしてください。今後もこのご縁を大切にしながら活動を続け、託された思いを飛騨の皆さんに届けさせていただきたいと思っております。



女川の皆さんによる歓迎の余興



楽しく語り合った交流会

高山別院お煤払い奉仕のお願い

12月21日(日)午後1時からのおつとめの後、本堂の煤払いを行います。1年の汚れを落とし、新年をお迎えます。ぜひともご奉仕をお願いいたします。

※持参品…マスク・タオル・軍手など



ご回壇

11月(日) 映芳寺

18日(日) 稱讚寺

11月(日) 下之町

大谷婦人会 新年定例会

期日 1月11日(日) 時間 午後1時から 会場 御坊会館 法話 大町慶華 輪番

甘酒の接待があります

真宗本廟(東本願寺) 収骨団体参拝 参加者募集

真宗本廟収骨とは、京都東本願寺の親鸞聖人の御真影が安置される御影堂の御もとにご遺骨をお収めすることです。収骨を行うには、相続講金を納めることにより発行される「収骨證」が必要です。

ご希望の方は、お手次のお寺までお申し込みください。

期間 3月14日(土)～15日(日)【1泊2日】 日程 お斎(昼食)、真宗本廟法話、収骨、帰敬式、大谷祖廟参拝、比叡山参拝など 宿泊 観光旅館 近江屋 定員 20名 ※定員になり次第締め切り

※参加人数が10名未満のときは、提示した参加費での開催が困難となるため、中止とさせていただきます。

参加費 お一人 33,000円

締切 2月10日(火)

※詳細については教務所(☎0577-32-0776)へお問い合わせください。